

## 農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書提出 議事概要

日 時 令和4年8月22日（月） 14:53～15:50

場 所 仙台市役所2階第4委員会室

出席者 仙台市：藤本副市長、次長兼農林部長、農林部参事兼農政企画課長、農業振興課長、農林土木課長（5名）

出席者 農業委員会：会長、会長職務代理者、第一調査委員会委員長・副委員長、第二調査委員会委員長・副委員長、企画検討チーム長、事務局長（8名）



### 意見交換要旨

#### <菅野 則義 第一調査委員会副委員長>

- ・ウクライナ情勢に伴い段ボールやラップ類の値段が上がっているが、野菜の値段は上がらない。行政で補助金のような一時的対策ではなく、長期的に何かしていただけることはないか。
- ・農業者は野菜やコメに自分で価格転嫁できないところが不利である。市で何かを考えてもらい、若い人たちが農業に魅力が持てるようにしてほしい。

#### <大泉 権吾 第一調査委員会委員長>

- ・農地中間管理機構（みやぎ農業振興公社）というものは農地を貸したい人、借りたい人と調整を図り規模拡大を進めていくのが仕事だが、みやぎ農業振興公社の取り組む姿勢等、評判が良くない。県内35の市町村のうち、仙台市は農地面積が6番目でそれなりの規模であるので、行政側から積極的に取り組むようプレッシャーをかけてもらいたい。

#### <加藤 和江 企画検討チーム長>

- ・女性農業者数の減少、高齢化の進行があり、女性農業者への研修機会を増やしてほしい。また、女性農業委員を増やすために、啓発行動や意見交換の機会をとらえて女性農業者に働きかけを行ってほしい。
- ・懸命に頑張っている新規就農者や親元で就農している青年就業者への継続的な支援もお願いしたい。仙台市の農地と食を守るための行政の後押しの重要性を、農業委員の活動を通じ痛感している。

#### <赤間 敬 第二調査委員会委員長>

- ・山林に隣接する田畑への獣害、特にイノシシによる害、平坦部においてはカラスやカモによる鳥害が深刻な状況である。
- ・イノシシについてはワイヤーメッシュ柵や電気柵への助成により、線的な対策で済むのに対し、鳥害に関しては面的な対策が必要であるが後手後手になっている状況であり、局地的に甚大な被害も多くなっている。手厚い助成をお願いしたい。
- ・丘陵地東部の宅地開発の時期とイノシシの出現が重なっている。抜本的な対策として市有林と民家の間の線的な対策をやらなくてはならない。また、非農家を含めた地域対策も必要である。山林と田畑の間に帯状の住宅地が張り付いているようなところで、田畑と一緒にその地域を守っていくことが、地域全体の連帯感を生み、ひいては山林に住む獣たちとの共生を促すこともできるのではないかと。
- ・地道な取り組みだとは思いますが、仙台市での全体的な取り組みをお願いしたい。

#### <嶺岸 若夫 会長職務代理者>

- ・平場の方だけではなく、引き続き中山間地の獣害対策もお願いしたい。
- ・地産地消の話だが、自校式学校給食の学校に食材を納めていて、栄養士から、最近食材費が上がって大変だが給食費は上げられないと言われた。市からの手厚い助成ができれば、さらに言えば無償化になれば最高なので、それらの検討をお願いしたい。
- ・仙台市が学校給食に環境保全米を提供していることを、子供たちもその保護者も農家にも知られていない。良い取り組みなので、是非仙台市としても子供たちの食育にこういうお米を使っているというPRをどんどん発信してほしい。
- ・環境保全米を作るにあたっては、やはり、普通に栽培している慣行栽培のお米との価格差が出る。価格差への助成に関しては充実したものになるよう、引き続き市の支援をお願いしたい。

#### <高橋 勝彦 第二調査委員会副委員長>

- ・近年各地で大雨があり、最近だと名蓋川、青森・秋田で水害が発生して甚大な被害が出ている。名取川河川敷では六郷地区、向かいの袋原地区に広大な畑地があるが、名取川の畑は年に1～2回増水して堤防のきわまで来て野菜が水没する等甚大な被害を受けている。河川敷の中州等のスキヤヨシ、低木等が水の流れを阻害していると思うので、国土交通省に市から低木を除去し水の流れを良くするようお願いをしてほしい。
- ・河川敷の畑に行くための道路があり、増水した水の流れで道路が破損するため、補修ができるよう、砂利を敷く等復旧を市からお願いしてもらいたい。併せて、通常時も轍（わだち）が結構できているため、補修用の砂利等も市から国土交通省にお願いして整備をしてもらいたい。河川敷はそういうことをしないと、畑が耕作されなくなり遊休農地になっている。それを極力少なくするために、市の力を借りて皆さんに畑を耕作してもらいたい。

#### <菅野 則義 第一調査委員会副委員長>

- ・歩道のそばにある畑や農地に街路樹からアメリカシロヒトリが落ちてくる。せっかく街路樹をきれいにしてるが手入れが遅れるようだ。市としてももう少し考えてほしい。

- ・公共用地・道路の草を刈ってほしいのは山々だが、市も忙しいと思い、自分の農地に面したところは刈るように指導している。しかし、長町の郡山では南部道路の法面の草が柵を乗り越えて、道路の方に生えてくる。こちらでどんなに農地側を刈っても葉先を刈っているの、抜本的に柵の内側を刈ってもらわないと効果がない。南部道路は昔、県の道路公社所管であったが、現在のハイウェイサービスに所管が変わってから刈ってくれなくなった。市の方から言ってもらえるようお願いしたい。

### <佐々木 均 会長>

- ・是非住みたい仙台市、住み続けられる仙台市であってほしい。そのためにはやはり安心安全な農業地帯、あるいは生産緑地、そしてその真ん中を流れる広瀬川や名取川、そういったものが総合的にかみ合い、素晴らしい仙台市になっていくのではないかと。もちろん山側も獣と一緒に住んでいけるシステム作りをしていただきたい。
- ・コメの価格帯がかなり下がってしまった。コロナの影響だといわれているが、アフターコロナの中でもどうしたら（価格帯を）維持可能かも考えてほしい。
- ・生産費が2倍3倍になると予想される。特に稲作農家に関してはこれからJAの予約購入の価格設定が出てくるが、かなり値が上がってくるだろうと思っている。そういう中でどうしたらいいのか、できるできないは別として共々考えていかななくてはと考える。
- ・緑の農業政策（みどりの食料システム法）が今始まっているが、それを早めに取り入れるべき。肥料農薬等も全部海外に依存していたものがストップしてそのために価格が上昇してきた。個人的な一農家として興味があるのが、自分たちの肥料を自然サイクルの中でできないかということである。昔クローバー等を蒔いて緑肥にしながらやってきた経過もあるが、それに似たような思い切った施策を考えていく必要がある。
- ・そうすると同時に環境保全米の作付けが可能になってくる。子供の数が多いから、仙台市が学校給食に出しているコメの数が宮城県で一番であり、面積換算するとかなりの面積となる。きちんとした市の対策で市に住み続ける子供たちを育てていく、まさに大切な食糧を食べていただく、農業を理解してもらえる食育の場でもあるので、その辺も推進をしていければ良い。
- ・震災後のフロンティア特区は大変復興復旧に役立ったと思っているが、それをさらにバージョンアップできないか。
- ・農地の集積集約を始めてだいぶ経つが小さい農家と大きい農家と一緒に農業を続けられるようにしなくては。新規就農者から農地について相談があったときに我々、行政を含めながら紹介ができるところを作っていたきたい。
- ・（仙台市の総農家数が）5年前から20%減ったと、700戸も減っている。新しい人たちが入ってそういう人たちと一緒に素晴らしい仙台市を作っていく施策を行うにはどういうステップを踏んだらいいか。いつも意見だけ言って、後で（回答を）お聞きするというだけではなく、話し合いの場を今後も持っていただけると幸いなので、検討していただきたい。ざっくばらんに話しあうことから素晴らしい案が出てくるのではないかと思う。よろしくお願いしたい。